

## 英語動詞の現在進行形と “Emotional Colouring”

佐々木高政

C. T. Onions はその著 *An Advanced English Syntax* (1901) の § 134 c で、英語の動詞の進行形はある場合には本来の「継続」の含みを全然もたず慣用的に用いられて、その文に感情的色彩 (Emotional Colouring) を与え、「驚き、嫌悪、いらだち」等の感情を表わすと述べているが、その例としては現在完了進行形を含む文を二つ掲げているだけで、進行形という形態がいかにして叙述に感情的色彩を附与するのかという心理的基盤に対する考察は全然与えていないのである。しかし彼のこの新しい見方は、Jacobus van der Laan の取り上げる所となり (*An Enquiry on a Psychological Basis into the Use of the Progressive Form*. 1922. § 9)、心理学説に足場をもとめて進行形の表わす意義を解明しようとする彼の理論展開のいと口にすらなっている。J. van der Laan は「進行形は一つの動作、過程或いは状態が注意を喚起し、それが暫らくの間観察され、それと同時にこの観察によって観察者の心中に覚醒する種々の感情を暗示するというような場合にのみ用いられる (斎藤静氏訳「動詞進行形の研究」§ 14)」と考える。つまり観察者の心中に湧く興味、嫌悪、性急などの主観的感情が進行形に一抹の感情的色彩を与えるのであって、それらの感情が屢々現在進行形に含まれているとする。これと対照的な考え方を提示しているのは E. Kruisinga であって、彼は *A Handbook of Present-Day English Part II*. § 201 (以下 *Handbook* と略記) で ‘Sometimes the progressive seems to express personal interest’ と述べ、観察者の関心 (personal interest) が進行形という形式をかりて表わることがあると一応は認めながらも、掲げている例 (その顕著なもの

を二、三えらんで引用しよう) について

Frederic was always sending in small bills that were too large for his (i. e. the father's) small earnings. G. Cannan, *Round the Corner*, p. 60.

She did not care about golf, and to-day the mere sound of the name irritated her. Englishmen were always playing golf, she said to herself. R. Hichens, *The Way of Ambition*. ch. 15.

Minna was decidedly pretty, with a delightful grin and a mocking humour. The most serious and solemn young men were always proposing to her, but she always refused them or became engaged to them for about a week. *ib.* p. 59.

「たしかにこれらの文は筆者の 'interest' を表わし、ある場合には(上掲の第一、第二例) 'impatience', または(上掲の第三例) 'humour' を表わすが、こうした意味 (Onions や Laan の "Emotional Colouring" に当る) をひき起すのは context であり、進行形の働きはこの場合、継続 (continuation) を表わし、もしくは描写的 (descriptive) であろうとするにすぎない」と言い切っている。事実 J. van der Laan の掲げている数多くの文例を調べて見ても、彼が読み取ろうと努力している emotional overtones が、実は Kruisinga の言うようにその context に音響板をもつのではないかと思われる場合が決して少なくないのである。

この微妙な点について、英語を母国語とする (Onions 以外の) 文法学者の意見が当然次にはわれわれの興味を惹くのであるが、H. Sweet には特別な発言はなく、George O. Curme にいたってはじめて、「進行形の構成要素である現在分詞は verbal force を持つと同時に predicate adjective でもあるから descriptive force を有し、その表わす具体的な意味 (concrete meaning) 及びそれと屢々聯想される強勢 (stress) とか特殊な口調 (tone) の故に、感情がこもり、話者がなにものかによって感情を動かされていることを示し、悦び、悲しみ、快、不快、賞讃、非難、また強調を屢々表わす」という意味の説明がきかれる (*Syntax* § 38.1.). 彼は強勢 (stress) とか特殊な抑

場に、進行形に屢々感じられる emotional overtones の説明をもとめようとしているように思われるが、それを考慮に入れても尚かつ、彼のあげている感情のこもっているという例は Kruisinga の context 説に片づけられそうなものが多いのである。二、三の例をあげると

‘John is *bothering* me a good deal of late and *keeping* me from work’ (spoken in a complaining tone). [この単純形として並べてある John *bothers* me a good deal. は事実の客観的叙述ということになっているが、*bothers* を抑揚に適当なひねり (twist) を与えれば話者の感じている complaint を表わすことができよう。] / ‘John is *doing* fine work at school’ (spoken in a tone of praise). [John *does* fine work at school. は単なる事実を表わすことになっているが、これとて fine に強勢を置き rising-falling-rising intonation で発音すれば「(君はそう言うけれど) John は学校ではよくやっているんだよ」といった賞讃の気持が表われよう。] / ‘What are you *doing*, children?’ (curiosity). [FEN の放送劇 *In the Cave* で、迷って来た二人の子供にむかって海賊の首領が What do you *do* here? と怪げんな口調でいう台辞を筆者は聞いた。] / ‘Why aren’t you *studying*?’ (censure). [これも勉強していない事実 *to censure* を感じているので、進行形そのものについては、そうした状態の継続を「発言時の現在」周辺に浮び上らせるために使用されている感じの方が強い。Why don’t you study harder? でも *consure* を表わすことはできるのである。]

進行形に屢々感じられる emotional overtones の説明に、そうした場合習慣的に聯想される強勢とか抑揚を持出すことができる点は英語を母国語とする文法学者の強味であるが、そうした説明は表情、身振り、抑揚といった強力な補助手段 (agents) の介添をもたぬ冷い活字の上の例を、英語を母国語としないわれわれがさばく場合の頼りとしてはいささか心細い。細部の点については本論に於いても触れる機会があろうが、Curme の場合にも、進行形という構文 (constructions) そのものと話者の感情との因果関係 (がもしあるとすれば) については成程と思われるような説明はきかれないのである。

進行形が情的ニュアンス (affective nuance) の入りこむ opening を与える理由について最もはっきりした説明を与えているのは A. G. Hatcher であろう。彼女はその論文 *The Use of the Progressive Form in English* (Language Vol. 27, No. 3. pp. 254—280) におい

て、賢明にも考察の対象を現在進行形に限り、いついかなる明瞭な情  
況の下に、いかなる性質の動詞（どちらの構文をとるかは動詞自身の  
性質によって決定されると言ってよかろう）について進行形を用いる  
のが常態 (norm) か、またいかなる場合に単純形 (the simple form)  
と交替可能か、その場合の nuance はどうか、について考察する。彼  
女によれば (ib. p. 268)

The simple form is the norm for verbs which describe a pro-  
cess that is both non-overt and non-developing; the progressive  
is the norm for all other verbs.

なのである。この場合 non-overt (activity) というのは精神的 (psy-  
chic) な活動にも肉体的 (physical) 活動についても、その過程が微妙  
(tenuous) で、とらえられない (肉体的活動の場合は invisible で  
inaudible というわけである) 性質のものを指し (例えば My nose  
itches.), それが非進展的な意味を表わす場合には動詞は (少くとも現  
在時制においては) 単純形をとるのが常態 (norm) というわけである。  
従って進行形と単純形の交替については次のようなことが考えられる。

(a) 進行形を単純形に変えると「明白活動 (overt activity)」の  
観念 (もしくは進展的活動の観念も) が失われる。

*She is rubbing the furniture.~This shoe rubs my heel.*

(b) 単純形を進行形に変えると「漸次的進展 (development by  
degrees)」が強調がされることになる。

*I taste something funny.~I'm tasting more and more salt in  
this soup.*

「明白活動」の観念を強調するためにも同様の移行が行われる。

*I refuse to go.~She's shaking her head: she's refusing to go.*

更に彼女は、非明白、非進展的活動の動詞についても、次の事柄を強調  
する場合は進行形が常態 (norm) であるとする (ib. pp. 270—1). 即ち

(1) What is happening to the subject? (換言すれば the sub-

ject is affected by his activity) Ex. *I'm having an awful time.*

(2) What is the subject doing? 詳しく言えば

(a) What is he busy at, engrossed in? Ex. *I'm meditating.*

(b) What is he actually accomplishing? Ex. *You are challenging fate.*

この基準は単純形を常態 (norm) とする動詞の場合にもあてはまる。

(1) *Yes, I see the picture.~Imagine: at last I'm seeing the Mona Lisa!*

(2a) *I think so.~I'm thinking it over.*

(2b) *Stop it, you bore me.~Am I boring you?* [この例は筆者]

感情のはげしさがぐいと前面につき出されるのを感じるのはこの単純形を常態とする動詞が進行形に用いられる場合で、叙述はそれによって “becomes more warmly felt, more personal, more spontaneous (ib. p. 272)” だと言う (cf. Curme: *Syntax* 38. 1). このような情動的ニュアンスが進行形の特徴であることは大抵の文法家たちがそこはかたなく感じて来ているが、どのような situation の下にこのような nuance が期待されるのかを明確にしようとする企ても、またその nuance のよってきた理由を説明しようとする企てもなされていないと Hatcher はきめつける (ib. p. 273). 単純形を常態とする上記のグループの動詞はそれ自身心的乃至情緒的活動を暗示したり、描述したりする動詞であるが、(1) 主語が自身の上<sup>に</sup>起きてることによってある種の影響をうけていることを強調するため、*I see* が *I'm seeing* となるとき、(2a) 主語がなしつつある事柄に忙しく没頭していることを強調するため、*I think* が *I'm thinking* となるとき、(2b) その行為に対する責任を強調するため、*You bore me* が *He's really boring her to death* となるときには、情緒の強さを高めること (a heightening of emotional intensity) になるにちがいない、と彼女は考える。進行形の使用を動詞の (非) 明白性、(非) 進展性という面から規定しようという彼女の試みは、理論的に非常にすっきりした印象をうけるし、心理のあや (psychological nuances) をあれこれ考え集め、分

類して、それに例をあてはめようと苦心する J. van der Laan の行き方と比べて無理がそれ程感じられない。しかし理論的にあまりはっきり割り切れすぎているため、実際の使用意識にはそぐわぬ面もあるのではないかという危惧が感じられることも否めない。

一つの物体にじーっと目を注いで見つめているといつか焦点がぼけてしまうのと同じようなことが、文法学者がある一つの言語現象を考察する場合にも起り得るのではなからうか。用例蒐集、観察、分類、考察という段階を進んでゆく途中で次第に脳袖に形成されて行く根本概念が除々に確信と交り、その確信がなんでもない普通の用例についても彼一流の解釈を読みこませることが絶無とは言えなそうである。

進行形に屢々感じられる“Emotional Colouring”の場合もその例にもれない。われわれが最も警戒しなくてはならないのは牽強附会の傾向であり、疑心暗鬼を生ずる心的態度である。

多くの文法学者によってたてられている理論はそれ自体貴重なものであり、教えられる所も多いのであるが、その考え方の謂わば check-up として、文法学者以外の一般人の実際の使用意識も調べてみる必要があるように思われる。言語現象に関する高度な理論と解釈が文法学者の頭の中にだけ座をしめている存在 (entity) ではなく、もっと素朴な姿においてではあるが一般人もその根本に於いては大体似たような意識をもっているのかどうか、がわれわれとしては知りたくなるのである。

そこで当面の問題になっている現在時制における進行形と感情的色彩というはなはだ微妙な点について特に顕著と思われる六つの場合をえらび (本稿では紙数の都合でその中の三つだけを取り上げた)、それぞれ一連の質問を付けて、数名の英国人、米国人、カナダ人に回答を依頼した。調査範囲はもっとひろげるべきであったが、今回は時間的余裕がそれを許さなかったため寄せられた回答は大凡の見当をつける参考材料にしかすぎない結果になってしまった。また用例なども厳密に言えば「場 (situation)」をはっきりさせるため問題の個所の前後をできるだけ長く引用して回答者の読み違いを防止すべきであった

が、英米人には自明と思われる場合には、問題の個所を含む文 (sentence) だけの引用にとどめたため、あきらかに誤読された個所も二、三あり、そのため折角の回答がこちらの思うところをついてくれなかったうらみもあった。質問の設定の仕方そのものにも可成り問題があり、wording にも不手際な個所が多かろうと思われるが、ともかく筆者の明かにしたかった問題点は

(a) Is the emotional colouring a product of the context, quite independent of this particular form of verbs?

(b) Or has the Progressive Form anything to do with it? In other words, is the form better suited than the simple form for the purpose of conveying certain shades of emotion felt by the speaker?

の二つで、進行形に関して一般英米人の意識の底をのぞくために多少の重複は承知の上で質問をならべたのである。回答をよせてくれた人の中、A, B 両氏は米国人、C 女史はカナダ人、D, E, F 三氏は英国人で、いずれも知識層に属す人々である。その中 A, B, D, F 氏は日本に来て以来まだ二、三年しか経っていないが、C, E 氏は日本に住みついてから二十数年という人々である。

### (1)

まず最初に Hatcher が明白活動 (overt activity) の観念、または主語のその「行為への没頭 (his absorption in activity)」の観念を強調するために単純形から進行形に移ると説く (Language Vol. 27, No. 3 pp. 269—71) 場合を取り上げてみよう。Sweet は感情、肉体的また心的知覚を表わす動詞 (feel, like, think) は単純形で普通用いるが、‘volition’ または ‘action’ の要素が優勢になる場合は進行形をとると説明する (NEG § 2218)。これに対し Krusinga は、その種の動詞 (hate, love; see, hear, feel; like, think) のあるもの (think と hear の例があげられている) が意識的行為 (a conscious act) を表わすために用いられる場合には「継続」を意味する進行形の

姿をとることができるが、多くの場合 (see, love, hope, wish, lament 等の例があげられている) その進行形<sup>(1)</sup>は descriptive function を果し、「進行」の意味そのものは、例によって、context から生れるとされている (Handbook II § 197, § 209.). O. Jespersen はそうした行為が one single act of perception を示す場合以外はその動詞を進行形にすることにはなんら差支えはないとしている (MEG 14. IV 6 (8)). 次の例について観察して見よう。

“You’re hearing very well,” said Louise ingratiatingly. “Telax,” replied Aunt Esther. “I put in a new battery because I knew you were coming so there’s no need to shout.” N. Coward, *This Time Tomorrow*. cf. Do you hear me? / “I think you’re looking very much better than when I saw you in London.” J. Hilton, *Without Armour*. cf. “But you don’t look a day older, Aunt Cassie. You look stronger than ever.” L. Bromfield, *Early Autumn*. / I’m feeling angry at the moment, naturally enough, but unfortunately I know that the anger is only temporary. N. Coward, *Relative Values*. cf. “I feel faint. Everything is going black before my eyes. Ludwig Lewisohn, *The Tyranny of Sex*. / I think I know something of what you’re feeling now” R. Wright, *Native Son*. cf. I know how you feel. / Miss Godwin was having difficulty in breathing. L. Bromfield, *What Became of Anna Bolton*. cf. He blinked his eyes from the bright sunshine; his nerves were so taut that he had difficulty in breathing. R. Wright, *Native Son*.

- (1) 進行形の構成分子である現在分詞の性格を過去分詞のそれと比較してみると、後者の方は、ある状態に到達した感じ (Kruisinga は ‘terminative’ と言っている。Handbook II § 548) を与えるのに対し、現在分詞の方は、あるゴールに向かって行為状態が続行中 (Kruisinga はこれを ‘imperfective aspect’ と呼ぶ。ib. § 543) の感じをうける。そうした性格をもつ現在分詞を構成要素とする進行形からわれわれの受けるイメージが、単純形のそれが静的 (static) であるのに対し、動的 (dynamic) であるのは当然であろう。Curme はこれを ‘a description of unfolding events or unfolding details in a picture’ と巧みに説明している (Syntax § 38. 1.)。この動的、進展的な感じが、現在分詞のもつ形容詞的な力 (adjectival force) と結びつき、進行形の場合には「時の観念 (the idea of time)」が前面に出るため、叙述がより明確により描写的になると Kruisinga は考えたのであろう。



たしかに上掲の場合（進行形をとっているのは無意志動詞 (non-volitional verbs) である点に着目されたい）については Hatcher の言う通り、進行形の方には ‘overt activity’ の観念が感じられる。しかしそれよりも O. Jespersen (MEG IV 12. 5 (4)) や Kruisinga (Handbook II § 210) の説くように「時」の要素の方が前面に押し出されて強調されている感じの方が immediate である。進行形を用いる場合には発言時の「現在」（したがってその状態は transitory であるという含みが生れる。cf. MEG IV 14. 6 (4)). 例えば ‘Amy was killed (were agreeing [for the moment の含み] she was killed) by someone who wanted to get her out of the way…’ A. Christie, *Murder Is Easy.*) という観念が話者の意識内で優位を占めるのに対し、単純形では「時の観念が幾分ボケてそうした行為状態そのものの方に注意が向けられるのではあるまいか。英国の友人からの私信に ‘I suppose the mood will pass but I *do feel* a bit depressed at the moment.’ という一句が見当たったが、これも ‘at the moment’ と言いながらも ‘*do feel*’ という形でその行為、状態の actuality の観念が強調されている。(もっとも I *am feeling* と *am* に stress を置けば actuality の観念が強調されるが偶々 stress を受けるのが *am* であるため発言時の「現在」という観念も同時に強調される。Curme, *Syntax* § 38. 1.) 次の例は興味深い。

*Annette*: Oh, you *are* always *joking* (只今の発言も含めて). *Hans*: No, no. I *am* not *joking* (今の場合も)! I say what I think, that’s all. L. Lewis, *The Bells.* / He’s *laughing* at us, Ida—he always *laughs* (習慣的行為) at us. J. Albery, *Two Roses.*

ところが同じグループに属する動詞でも次の場合の進行形には H. Sweet の説く ‘volition’ 乃至 ‘action’ が感じられる。これは有意志動詞 (volitional verbs) だからではあるまいか。

Why *are* you *blaming* me for this? If anyone’s guilty, it’s you. G. Greene, *The Living Room.* cf. “I don’t *blame* her for that.” Daphne du Maurier, *My Cousin Rachel.* / “What *are* you *thinking* about? Have you thought of something you’d forgotten? G. Hanley, *The Consul at*

*Sunset.* / What are you thinking of? " A. J. Cronin, *Hatter's Castle*.

最後の例では thinking に強勢を置き「一体なんてことを君は考えているのだ」という話者の胸中の amazement と annoyance を表わすのである。

次のような場合には(進行形をとっている動詞は 'volitional verbs' である点に着目されたい) 'volition' から一步進んで、意識的行為 (conscious act) または故意 (wilfulness) が感じられないだろうか。(Kruisinga, *Handbook* II § 209)

"I see it's no use saying any more. You're just deliberately *misunderstanding* me." N. Coward, *South Sea Bubbles.* / "You don't know what you're *saying*, man!" J. Galsworthy, *A Fisher of Men.* cf. "You have been drinking, Luke, and don't know what you *say*." C. H. Hazelwood, *Lady Audley's Secret.* / "They're *saying* that the (dead) girl was Arthur's mistress—that she was his illegitimate daughter—that she was black-mailing him. They're *saying* anything that comes into their damned heads!" A. Christie, *The Body in the Library.* / "That's what I'm always *telling* her." V. Woolf, *The Years.* cf. "I always *say* you never can tell when trouble is coming, sir." David Frome, *Mr. Pinkerton Finds a Body.* / What the hell are you *talking* about? W. Saroyan, *Little Children.* / Janet: Mabel told me he left a few minutes before I got in. James: Oh, aye, he did. I *think* he got tired of waiting for you. He's an impatient man, I'm *thinking* (=I'm trying to think). There's no stability in him. St. John Ervine, *The First Mrs. Fraser.*

上の場合、話者の感じている 'annoyance' または 'irritation' そのものは主として context から来るようであるが、そうした感情を謂わば煽り立てる役をしているのが 'wilfulness of the action' で、それを表わすには進行形が適しているように思われる。FEN の放送劇 *Indictment* (Nov. 20, '58) で、妻が自分に不利な証言をしたのをきかされた夫が 'She's *lying*. She *is lying* to get even with me.' と激しい口調で絶叫するのを筆者はきいたが、この場合の 'is lying' (の *is* は What she said *is* a lie. の底意から was が *is* に変わっているようで 'Historical Present' ではなきそうである) にも矢張

り強い ‘volition’ 乃至 ‘wilfulness’ が感じられるし、U. E. D. からの用例であるが ‘He is merely *pretending* affection.’ についても同様な感じをうける。

こうした psychological nuances を文法的先入主を持たぬ一般の日本人は感ずるのかどうかと次の質問を試してみた。

(1) (Mother to child) “I’m *trusting* you to keep away from the stove, now. And don’t play with matches.”

Walter Karic, *Lower Than Angels*.

(2) ‘Mr. Buchan, sir,’ he said, ‘I’m *doubting* you’ve been hoaxed.’ F. W. Crofts, *The Groote Park Murder*.

(3) ‘This is the last time I’m *warning* you, too.’

E. Caldwell, *Tragic Ground*.

Question 1. In the three examples given above, does the use of the Progressive Form suggest to you anything more than the mere sense of an act in progress at the present moment? For instance, a sense of some conscious effort on the part of the speaker in maintaining that mental attitude (Examples (1) and (2)) or in making that utterance (Example (3)), or simply the transitoriness of that mental attitude? Will you briefly jot down what you feel about the differences in nuance in the following pairs?

- a.  $\left\{ \begin{array}{l} \text{I trust you to keep away...} \\ \text{I'm trusting you to keep away...} \end{array} \right.$
- b.  $\left\{ \begin{array}{l} \text{I doubt you've been hoaxed.} \\ \text{I'm doubting you've been hoaxed.} \end{array} \right.$
- c.  $\left\{ \begin{array}{l} \text{...the last time I warn you...} \\ \text{...the last time I'm warning you...} \end{array} \right.$

回答例:

A (a.について) First instance is merely suggestive. In the

second case some threat is implied. (これは context から来る感じであろう.)

(b. について) In the first example doubt itself is the only emotion expressed. In the second the factor of doubt is not as strong and there is some suggestion that the speaker is considering other things in addition to doubt; indeed, that there might be some *belief* that the second person had been hoaxed. (doubting というのは控え目な言葉で, I somehow believe と言ってもよいところ, その中心の浮動が am doubting という言い方に表われているというわけであろう)

(c. の進行形について) Suggestion here of re-inforced emphasis and additional threat.

- B a.  $\left\{ \begin{array}{l} \text{I trust} \cdots \rightarrow \text{I know you will keep away.} \\ \text{I'm trusting} \cdots \rightarrow \text{I am depending upon you to do so.} \end{array} \right.$
- b.  $\left\{ \begin{array}{l} \text{I doubt} \cdots \rightarrow \text{I don't believe so.} \\ \text{I am doubting} \cdots (\text{I'd never say this, is it dialect?}) \end{array} \right.$
- c.  $\left\{ \begin{array}{l} \cdots \text{the last time I warn you} \cdots \rightarrow \text{I won't warn you again.} \\ \cdots \text{the last time I'm warning you} \cdots \rightarrow \text{I won't warn you again.} \end{array} \right.$

B は a. の進行形のほかは両者の nuance をみとめない。a. の場合も「時」の要素をいささか意識しているのかと推察される程度である。

C (a. の進行形について) More persuasive.

(b. c. の進行形について) Local dialect.

D (枠内に掲げた例について) I seem to believe that the three examples indicated represent local slang usage or colloquial ways of speaking.

(a. の進行形について) Merely a means of emphasizing the act.

(b. の進行形について) This seems to me to be the way an Englishman in this position would speak. It seems to be a bit stilted. I doubt that it would be found very

often in American usage. これで前掲の *B, C* の “dialect” 説がうなずける

(c. の進行形について) This seems to be a “hill billy” way of speaking. (米国南部が舞台だと察しての comment のようであるが、この場合は ‘*I’m warning you, and mind, this is the last time*’ の後半の ‘This is the last time…’ が意識内で勢位を占め先に出てしまったための構文でことさら “hill billy” ときめつけなくてもよさそうに思われる)

**E** *I’m trusting*…: suggests the continuance of the emotion. We say, for some reason or other, “I love you”, not, “I’m loving you.” The “I love” form is supposed to suggest timelessness; but the (improper) form “I’m loving” gives us the feeling of time (present) in the eternal (timeless) and is preferable. (cf. Kruisinga, *Handbook* II §209)

**F** (b について) “I doubt.” “The suspicion has formed in my mind.”

“I’m doubting.” “The suspicion is going through my mind, or is forming in my mind.”

(c. について) “I warn you.” “This is the last time I shall ever warn you.” (このような場合 **F** は *shall* (ever) warn のように未来形を使うと断り書きしている。)

“I’m warning you.” “I’m warning you now, but I’m not going to do it again.” The first form could express either intention or plain future, but the second only intention.

So I think I would say the Progressive Form only suggests something in progress at the present moment, simply the transitoriness of the mental attitude.

以上で分るように、**A, E** はこの場合の進行形に程度の差はあるが感情的色彩を感じている。特に **A** の場合には a. c. の進行形に Sweet の ‘volition’ を認め (trust も warn も volitional verbs である), b. のそれについては (doubt は自然に生じる心理状態であるから, non-volitional verb と考えて

よいのではあるまいか) Hatcher の 'development by degrees' すら感じ取っているのが興味深い。C の場合 'I'm trusting' の方が「より説得的」と感じるのも 'I trust' としてその「心理状態の存在」をむきつけに言うよりそれを「発言時の現在」に限定、したがってその状態は次の瞬間にはこわれ去るかもしれないというハラハラさせる期待を持たせる、換言すれば「そうした気持を今持ちこたえているのですよ」という含意があるためではなかろうか。D の a. についての感じも C の場合と同じことである。

Question 2. Do you feel that the context is responsible for all this or that the Progressive Form assists partly, if not wholly, in conveying this nuance?

回答例:

**A** In all three examples the Progressive form assists in the difference in nuance. In (1) some additional threat is implied. In (2) there is some suggestion of emotional conflict. Finally in (3) there is a definite re-inforcement of emphasis.(前言と同趣旨)

**B** The "ing" form gives in all of these a sense of an act in progress at the moment. It is most clear in "I trust" and "I am trusting." But even here the "I trust" form could equal only "I am depending" according to the speaker's intonation.

**C** The Progressive Form assists.

**D** The context seems to be mostly responsible.

**E** No connexion with the context.

**F.** The progressive form assists in conveying the nuance of transitoriness.

D. が Kruisinga の Context 説に賛成 B が懐疑的であるほかは、A, C, E の三名はこの種の場合、進行形という形態が感情的色彩を伝えるに役立つことを認めている。F は進行形の「一時性」を表現する機能をみとめるだけである。

(2)

H. Poutsma は He's always *nos*ing into what doesn't concern him. のように性格を特徴づける行為を示す場合の進行形の機能を 'The Characterizing Function' と名付け (*The Characters of the*

*English Verb and the Expanded Form*, chap. II, 34), He always noses into what doesn't concern him. と比べて, 'The first is usually tinged with an emotional connotation, which is mostly wanting in the second.' (ib. chap. II, 35) と述べ, そのような場合の進行形には多く「非難の意味 (a dyslogistic purport)」が含まれるが, それは進行形の根本の意義とは無関係であると断っている. そしてほめるより非難に用いられることの方が多いのは, 人間という動物は元来ほめるより, くさす方を好むという事実起因するのではないかという愉快な見解を述べている (ib.). Jespersen は 'characterizing' などという窮屈な枠は用いないが, 進行形に *always, for ever, perpetually, constantly* 等々が結びつくとき往々その文に 'emotional colouring' を与えると言う. (MEG IV, 13. 1 (4)) J. van der Laan も *ever, always, continually, for ever, eternally* の如き副詞と結びつく進行形は, 習慣的に再起する出来事に附随する主観的反省を表わし…この進行形は, 立腹, 憤慨, 迷惑, 苦惱 (Annoyance), 感嘆, 嘆賞の如き意味を含む (「動詞進行形の研究」§ 24, 36) としている. 下の例などはたしかにうなずかれる説明である. しかしこの場合も進行形に用いられている動詞が volitional なものであることも context にそうした感情をこもらせる上に一役買っているような感じがする.

I'm always *doing* stupid things like that—please forgive me. N. Coward, *Peace in Our Time*. / Let me see. What did I come here to find? It's terrible, how absent-minded I've become. I'm always *dreaming* and *forgetting*. E. O'Neill, *Long Day's Journey into Night*. / I'm always *falling* in love with the wrong people. R. Anderson, *Tea and Sympathy*. / "It's just like him," she said; "he's always *trying* to be theatrical," L. O'Flaherty, *Thy Neighbour's Wife*.

これは過去進行形の場合も同じである.

'She was always scolding me about something or other. She fussed.' A. Christie, *Crooked House*. / 'That's what he was for ever *dinning* into our ears.' K. Roberts, *Northwest Passage*

好ましからざる (unwelcome) 行為が反復されれば irritation,

impatience, annoyance の感情が起るのは当然で、「反復<sup>(2)</sup> (repetition)」をも示し得る進行形が用いられて emotional overtones を奏でるのではあるまいか。

勿論そうした irritation, annoyance の感情は単純形を用いても表現できる。

*The telephone rings.*

Monica (*going to it*): That damned thing never stops.

Hallo—hallo—Morris? N. Coward, *Present Laughter*.

Doris: Mother, you do nothing but grumble.

Mrs. Pockett: Me, grumble! I like that, I'm sure. N. Coward, *Fumed Oak*.

第一例の 'never stops' は 'is always ringing' (とすれば volitional verb あつかいとなって、電話器そのものに 'wilfulness' を感じているような言い方となる), 第二例の 'do nothing but grumble' は 'are always grumbling' としても emotional connotation にはさほど変りはないと思われるが、単純形がその行為に表われた事物、人物の本質的な性質そのものを強調するのに対し、進行形の方は過去にもあり(将来もあろうと思われる)行為が「今現に目の前で再び起っている」事実をとらえ *always* 等の副詞のたすけをかりて習慣的行為の「反復」を誇張化するに役立っている感じである。

行為の「反復」またはある状態の「持続」が、上の場合より時間的に短い次のような場合にも、同じように emotional overtones が感じられないだろうか。

---

(2) Poutsma は 'durative verbs' の進行形は 'separate acts' の「反復」を表わすと言っている (*The Characters of the English Verb and the Expanded Form* Chap II, 2 (b)) のに対し, Kruisinga は「反復」は進行形という形態そのものによって表わされるのではなく, 'repetition is meant to be understood' と述べている (*Handbook II*, § 199). 次の例は興味がある。

Somewhere out of sight somebody was coughing—cough, cough, cough. G. Greene, *The Confidential Agent*.



What's this door *doin'*, locked, faw? T. Williams, *Cat on a Hot Tin Roof.* / Philip: And, by the way, why *are* you hanging about here so much! James: Hanging about! ..Why the deuce shouldn't I *hang* about? Janet's my wife! St. John Ervine, *The First Mrs. Fraser.* / “I want to get out of this town,” he said. “Everybody's *sneering* at me. I can't stand it here.” J. Steinbeck, *East of Eden.*

いずれも context の上から、このましからざる行為、状態の反復、持続を第一例では話者は stubborn, と感じ、第二、三例ではそれに *persistence* を感じて irritation, disgust, annoyance の感情を起し、それを進行形という音響板にあてているように読まれる。この場合にも volitional verbs である点に着目すべきであろう。

その点をたしかめるための質問、及び寄せられた回答を掲げる。

(1) “She's awfully kind. But I'm always *having* to be grateful to her. It's very depressing. It makes me want to bite.”  
Dorothy L. Sayers, *Gaudy Night.*

(2) Jack (in a high voice): Well, he's always *comin'* home an' *shoutin'* an' *bangin'* on the table.'

D. H. Lawrence, *The Widowing of Mrs. Holroyd.*

Note: Jack is denouncing his father who is a drunkard.

He is getting tearful and defiant.

(3) “Then what *are* you *standing* there like a fool for?”

Richard Wright, *Black Boy.*

(4) “Really, you *are taking* a good deal upon yourself, Archie,” he said coldly. A. A. Milne, *Once a Week.*

(5) “And what must you *be letting* him have my money for? Answer me that,” said the Squire, attacking Godfrey again, since Dunsey was not within reach.

George Eliot, *Silas Marner.*

Question 1. In the Examples (1), (2) and (3), is it correct to assume that the persistent (so it seems to the speaker) repetition (of an act) or the wilful continuation (of a state) is getting on the nerves of the speaker? Granted that it is, is the context responsible for the emotional colouring or has the Progressive Form itself anything to do with it? To be more exact, is the same nuance conveyed if we use the simple form instead like this: 'I always *have to be*...', 'he always *comes*...', and 'Why *do you stand* there...?'

回答例:

**A** In (2) you have a series of verbs in the Progressive form and in this case the Prog. form serves a definite purpose in the emotional coloring. In (1) I think the context and such words as "*awfully*", "*very depressing*", and "*bite*" determine the emotional coloring. In (3) the use of the Prog. form carries far more emphasis than the words "Why do you stand there?"

**B** I feel the progressive itself (because it refers to a more "solid" repetition) has a great deal to do with the feeling of irritation. 'I always have to be' suggests that each time she has to be but it has an end, while 'having to be' means there is no end. "Why do you stand there like a fool" is quite possible in (3) but the emphasis is on "why" not "what"→i.e. the fact of standing.

**C** Progressive form conveys a different nuance.

**D** The progressive form helps to convey the nuance. The context of course lets you know the person is annoyed.

**E** It is the context which suggests the irritation, the repetition and continuance which the form expresses.

**F** (1) "I'm always having to be (=I constantly have to

be) grateful” means “She has the (annoying) habit of constantly putting me in the position of having to be grateful to her when I don’t expect it”, that is, her unpredictableness is annoying.

(上の when I don’t expect it はペンで書き足したものだが, この expect を want と変えてくれればすこぶる好都合なのであるが. 下の (2) の when we least expect it についても同様である.)

(2) ‘He’s always coming...’ He shouldn’t be doing it and we don’t expect him to do it as a father, but it’s constantly happening when we least expect it, and so it’s very annoying.”

(3) This is not parallel to the other. “Are standing” means “are standing now.” In modern English we don’t say “Why do you stand there...in that sense.

進行形が ‘emotional nuance’ を伝えるに役立つことは F を除き全員が認めている。この場合 (1) の have (to~) は non-volitional verb, (2) の ‘come, shout, bang’ は volitional verbs (3) の stand も volitional verb である点に着目されたい。

Question 2. In the Examples (4) and (5) the use of the Progressive Form seems to me to suggest the speakers’ annoyance at the persistence of the other party’s mental attitude or behaviour. Do you feel this ‘emotional colouring’ to be only a product of the contents of the utterance themselves? Can the same nuance be conveyed if we say, ‘You take...’, and ‘must you let...’ instead of ‘you are taking...’ and ‘must you be letting...’ respectively?

回答例:

A I agree with you in Ex. 4. If “you take” had been used it would normally carry a simple acceptance of the other’s responsibility. The Progressive form here carries a definite overtone of annoyance.

In Ex. 5 the use of the Prog. form implies immediacy where

as the simple form "must you let" suggests the general present.

**B** 'You take' would mean you always do so. 'You are taking' means now you are doing so. The last case (5) seems to me very uncertain. It may be a dialect. The meaning is not clear to me.

**C** Nuance is different.

**D** "You are taking" seems to refer to a particular situation whereas "you take" would refer to a more general personal attribute of the individual being spoken to. The phrase "must you be letting" definitely conveys irritation.

**E** Question I の回答と同じ

**F** (4) Again, particular and not general, 'you are taking now' and not 'you always take'. No inherent emotional colouring.

(5) This I feel to be dialectal English. In standard English we don't feel the necessity of using the -ing form with the verb 'let' after 'must'. 'Be letting' could be interpreted as being more particular than 'let', or also as indicating transitory behaviour. I don't think it's a case of a constant habit, as examples 1 & 2. In this case 'be letting,' is certainly emotionally equivalent to 'go and let.'

'take' も 'let' もこの場合 volitional verbs であるが, (4) については B, D, F は「時」の観念を感じ, A は進行形にはっきり emotional overtone を感じ, C も同様 nuance の相違を認めている。E は irritation を暗示するのは context で, 「持続」を示すのは進行形という形態と言うのである。

(5) については A が今度は「時」の観念を感じ, D は進行形が irritation を伝えるとしている。F も最後のつけ足しで 'emotional equivalent' と認めている各人の言語経験言語感覚に差がある以上, このずれはどうにもならないであろう。

Question 3. If you feel the Progressive Form (in some such similar cases) to be an important aid in conveying this colouring

to your utterance, is there any psychological link in your consciousness between this sort of emotion and your choice of the Progressive Form?

回答例:

**A** I think there is. This question is rather difficult to judge, but I think that I would use the Progressive Form in conveying emotions that were similiar to the ones I checked.

**B F** (該当する答なし)

**C** The choice is almost entirely subconscious.

**D** I can't seem to think of any psychological link between the form and the emotion.

**E** The Progressive Form increases any emotion, because (it is) dynamic instead of static (in its effect). ( )内は筆者補注.

無理な質問とは万々承知の上であたってみたのだが、このような場合に進行形をえらぶという点では A, C, E とも一致している。同様の situation で進行形が用いられるのを何回となく読み聞きしている裡に自然に、こうした感情のこもる内容と進行形の間心理的な link ができ、同種の場合に遭遇した際には一種の ‘reflex action’ として進行形をえらぶのではないかと思われるが、設問の工夫が足りず、突っこんだ説明がきかれなかったのが残念である。

(3)

Jespersen は ‘the house *is being* built’ の構文は既に 18 世紀末からの新しい用法であるが ‘is being’ に形容詞をつづける言い方はそれよりももっと最近のもので (*Growth and Structure of the English Language* p.194) 19 世紀半ば以前の用例は二つしか蒐集して

---

(3) 形容詞のほか副詞の用いられている例もある。

“Yes; they (i. e. the jury) are being rather *longer* than I expected.” “We’ve waited so long now, we may as well stop on.” D. L. Sayers, *Strong Poison*.

いないと言っている (MEG IV 14.7 (3)). 19 世紀末あたりからの用例はたしかに多くなっている。‘being’ の次には形容詞ばかりでなく名詞<sup>(4)</sup>を用いることもあるがよりまれであり, ‘comparatively unnatural’ と Jespersen は言う (ib. 14.7 (5)) が, そのように使われる名詞は形容詞的性質を帯びていたりまたは別の形容詞をつけていたりするので別に不自然さは今日では感じられない。下の例を見られたい。

Bridget gave a slightly shamefaced laugh. ‘I’m being rather an idiot.’ A. Christie, *Murder Is Easy*. / Judy’s grey eyes widened suddenly. ‘Hell, what a fool I’m being! I’ve just remembered.’ E. Crispin, *Frequent Hearses*. / He scratched his head. ‘I wish I could remember more about it—I’m afraid I’m not being a very good witness.’ Ibid. / ‘Do you think I’m being an awful brute?’ H. H. Davies, *Outcast*.

この新しい形式の進行形 (は現在時制と過去時制にだけ見られる) について Jespersen は *The Philosophy of Grammar* (p. 278) で

The use of the expanded form to express the transitory in contrast to the permanent state has in quite recent times been extended to the simple verb *be*, though the distinction between “he is being polite” of the present moment and “he is polite” of a permanent trait of his character is only now beginning to be observed.

と説明してあるだけで, この形式に屢々感じられる感情的色彩については MEG にも何の言及も見当らない。次の例を見られたい。

“Wére just being theatrical.” (self-contempt) D. L. Sayers, *Gaudy Night*. / “But isn’t he being a very long time?” (impatience) K. Mansfield, *Je ne parle pas francais*. / Now you’re merely being vulgar. (censure) A. A. Milne, *The Camborley Triangle*. / William, you’re being first-rate with your boys. (admiration) A. Miller, *Death of a Salesman*. / You’re being superior again, how odious of you. (disgust) N. Coward, *The Astonished Heart*.

(4) 次の例では代名詞すら用いられている。

“I keep wondering what sort of a person you really are. I mean,

勿論意味そのものから言えば、ある特定の瞬間(at some particular moment)における発言または行為の様態がどうなのかを示すのが主目的である一表現形式にすぎないのであるが「どうなのか」ということを示す形容詞(または名詞)の選択に話者の(un)favourable judgments が表われ、そこに emotional overtones がしのびこむ入口があるような感じがする。また be につづく現在分詞こそ ‘being’ であるが、形容詞または名詞と結びついて Poutsma の言うように(下欄の注参照)「活動の観念」を生じ、その含意する発言、態度、行為そのものに主語の ‘volition’ を感じ得るとすれば (be being + Adj. or Noun) という進行形に、後述の ‘deliberateness’ という感じをかもしだす基盤と考えられはしないだろうか。

Kruisinga も Jespersen と同じようにこの形式では「時」を表わすとしか見ない (Handbook II § 189). J. van der Laan は (be + Adj. が視覚印象をあらわす時は進行形にしないが (she was as red as the comb of a turkey-cock), 事物の性質または状態がわれわれの意識を刺戟する時は、(be being + Adj.) の形式が用いられるとだけしか言っていない (「動詞進行形の研究」§ 78 p.141). とにかくこの新しい形式の進行形にまつわる感情的色彩についてはまだ文法学者からは、なんらまとまった説明がきかれないというのが実情のようである。

---

what you're like when you're being *yourself*, what your tastes are, what you want most and everything like that.” J. P. Marquand, *Stopover Tokyo*.

- (5) Poutsma は「活動の観念 (a notion of activity)」が加わる場合には ‘to be’ も ‘being’ となって ‘be being’ という進行形を可能ならしめるとして、その「活動の観念」を説明するため、用例について次のようにパラフレーズを加えている (*The Characters of the English Verb* § 39 (b)).  
 you fancy you *are being very clever* (=are saying very clever things) / That is why she *is being so clumsy* (=behaving in such a clumsy way) in her manipulation of pins and things.

- (1) "I want to thank you, sir," she said. "You're *being* very *helpful*." Louis Bromfield, *Mister Smith*.
- (2) Thyra began to cry. She sniffed. "Nick, I think you are *being* *cruel*..." Paul Gallico, *Trial by Terror*.
- (3) "Don't be silly, Major."  
"I'm not *being* *silly*." R. C. Sherriff, *Badger's Green*.
- (4) Blanche: Have you been listening to me?  
Stella: I don't listen to you when you are *being* *morbid*! Tennessee Williams, *A Streetcar Named Desire*.

Of the form (be being+Adjective or Noun), Otto Jespersen says in his *Modern English Grammar* (Part IV, 14.7 (4)) that the predicative is generally an adjective denoting some characteristic mental or moral quality, and very often a transitory condition or behaviour is meant in contrast to the person's habitual or real character. But usage seems to have made this form a convenient vehicle in which to carry certain shades of emotion felt by the speaker towards a particular utterance or behaviour, as could be seen from the examples given above.

Question I. Let's first take "You're *being* very *helpful*" in Example (I). This mode of expression seems to thrust the fact of somebody's "*being* in a specified state" on the hearer's consciousness. Do you lay any stress on "being" when you speak "You're being very helpful"?

回答例:

**A** A stress on "being" suggests sarcastic overtones. I would stress "very".

**B** No, the stress is on "very" (sometimes) "helpful" (usually).

**C** The stress is on "helpful", not on "being." "You are



being” suggests one particular episode, or situation.

**D** (以下の全質問について)

I'm sorry to say that I was not able to read anything into the four examples given in this block. The use of “being” in the cases cited just seems to be common usage. However, here again the usage seems to refer to a particular period of time and does not refer to a more general situation.

**E** “are being” is the progressive form, but it refers to this particular moment. As in examples above, the progressive form brings out the activity and movement, mental or physical, of the person.

**F** No stress on ‘being’. This sentence strongly suggests the transitoriness of the helpfulness.

設問の *any* stress には *however slight* の意味を含めたかったのであるが、any だけでは不十分で（この場合 ‘very’ に primary stress がおかれ、‘helpful’ に secondary stress がおかれることは自明である）こちらの意図した要点から回答は外れてしまったが、A の回答の “being” に stress をおけば *sarcastic overtones* がただようという説明は *shrewd* で思わぬ拾いものであった。次の例にはその説が当るであろう。

‘Lord Whitfield was *béing* so interesting that the time passed like a flash. He was telling me how he founded his first newspaper.’

A. Christie, *Murder Is Easy*. (実は相手の自慢話に退屈し切っていたのであるが、事実 (actuality) の逆を言って皮肉をただよわせるには ‘being’ に stress をおくのであろう)

尚 stress の問題とはなれてはいるが、C, D, E, F の回答からはこの形式から特定の「時」の観念を感ずることがうかがわれる。

Question 2. You can express the same thing by saying “You’re *helping me* a great deal (by doing so)”, but the emphasis shifts from the manner of behaviour to the behaviour itself. What other difference do you feel between the pair? “You’re *being* very *helpful*” seems to suggest that the speaker feels strongly about the ‘deliberateness’ (the word may not be apt, but let it stand

for want of a better one) of the other's kind help or offer of one. In other words, the speaker seems to feel that the other person *is going out of his way to help* her, or that he is helping her a great deal *when he has no need or obligation to*.

A The emphasis changes to the behavior itself and the stress is now on the verb rather than the adjective. I agree that this implies a certain gratification of the speaker for special assistance rendered.

B I feel that the "being" form rather more strongly refers to a "condition or state or attitude" within the person. Someone may "help us a great deal" without "being" himself helpful.

C I do not agree with this.

E "Being" is psychological, or rather, it is psychical. "Helping" is physical, or rather, it is more mechanical whether physical or psychological.

F It is a case of a transitory condition.

ある行為なり発言を 'be doing (or saying) something in a certain manner' の形式で表現するより、その様態そのものを 'be being' の次におく形容詞なり名詞でずばり表わす方が強調 (emphasis) を与え (表現の短路的傾向がここにも見られはしないだろうか) ることを A は認める。E は 'be being' の方は身体的行動にまで発展せず心理的、精神的 (領域) にとどめた言い方だとするが、'be doing' の方は 'more mechanical' という言葉から 'be being' の方に 'deliberateness' を感じているのではないかと忖度される。B は 'be being' は (その時だけの) 「状態、態度」を示しその人の本性とは関係がないとする。F は例によって transitoriness を感ずるだけである。C は 'What you are doing is very helpful' と大差ない平板な表現とうけとり、そうした行為に 'deliberateness' などは認めない。しかし少くとも次のような例からは「持続」の観念に加えて 'conscious effort' または 'deliberateness' が感じられないだろうか。

[Father to his son with frigid anger] "Are you *being insolent* (=trying to be insolent), sir?" R. Besier, *The Barretts of Wim-pole Street*/I moved toward her, "Don't be a fool," I said. Miss

Joyce took a step toward the door, “You’re the one who *is being a fool*,” she answered. J. P. Marquand, *Thank You, Mr. Moto.* / “We’ve been out here for fifteen minutes, and have you noticed, no one’s moved inside the house? Not a shadow against the curtains—nothing. Perhaps she isn’t there.” “He’s *being still* (=trying to keep still),” Jack said, “because he wants it to look as if he weren’t there. Bill’s a smart operator.” J. P. Marquand, *Stopover Tokyo.* /

次の例ではわざわざ ‘deliberately’ と駄目押しがしてある。

“*Are you being deliberately offensive?*” cried Mr. Deacy.

L. O’Flaherty, *Grey Seagull.*

Question 3. Again from “*you are being cruel*” in Example (2) I feel, besides the apparent sense of ‘you are saying cruel things (or behaving in a cruel manner)’, a sort of ‘*wilfulness*’ of the act. The speaker seems to imply that the other party *has no business to say* such cruel things, for which the speaker feels reproachful towards that person. What considerations lead you to this form in preference to “You are saying cruel things (on purpose)” ? Will it be because the ‘being+Adjective’ form is more direct than the other form which must state the act or utterance and its manner, or because the one is easier to form in your mind than the other ?

**A** I think the use of the progressive here suggests a stronger emphasis (and perhaps a greater ‘*wilfulness*’) than the simple use of the adjective, —“*cruel things*” dilutes the statement and, therefore, changes the nuance.

**B** Certainly habit makes it an easier choice. It does perhaps suggest the person is deliberately saying cruel things but more than that I feel the person *is* (for the moment at least) *cruel*, not just saying cruel things.

**C** ‘You are cruel’ is general and ‘You are being cruel’ relates to a concrete episode.

E "Wilfulness" is correct, and refers to what I have just called "psychical."

F The right substitutions "Yor are behaving cruelly" (with the natural implication that you have no business to do so). The idea is that there is cruelty in your heart at the moment, and that you are delighting in behaving badly.

'Wilfulness' を認めているのは A, E, F (は you are *delighting* in behaving badly とパラフレーズして今迄の否定説をくつがえしてしまった) だけで、B はその「特定の瞬間における状態」を感じ、C も 'a single occurrence at a particular moment' を 'be being' 形からくみとる。D も「時」を感じていることは彼の Question I に対する一般的回答から明かである。しかし C が 'You are cruel' は 'general statement' と言っているが、それは Jespersen の 'habitual or real character' のことで「時」の制限をうけない意味であろうが、そうばかりは言えない。

- |    |   |   |
|----|---|---|
| 1. | { | (a) "Don't be sentimental about that, Mother." T. Hardy, <i>Interlopers at the Knap</i> .   |
|    |   | (b) "How sentimental I'm being...how sickeningly sentimental!" L. Bromfield, <i>Early Autumn</i> .  |
| 2. | { | (a) "What shall I do?" she asked her husband.<br>"Get out and keep quiet."<br>"Polite, aren't you?"<br>W. S. Maugham, <i>Flotsam and Jetsam</i> . |
|    |   | (b) 'Have you really read his books or were you merely being polite?' N. Coward, <i>South Sea Bubbles</i> .                                       |

1, 2とも (a) は特定の時における発言、(心的)態度を批判的に述べているのである。(b) にはそれになにものが加わっている感じがしないであろうか。すなわち 1. の (b) では「そうした考え方をしている(しなくてもよいのに)」自分が腹立たしく愛想がつきていることが 'sickeningly' で示され、2. の (b) では、彼に向かって「先程」言われた言葉は彼の気をわるくしないように「わざと」言った polite compliments だったのですか、という含意が読取れないであろうか。

Question 4. In Example (3), "I'm not being silly" is said in a piqued tone of voice, and here again that 'deliberateness or deliberate persistence' seems to make itself felt, the obvious

implication being ‘I’m not saying silly things (*when I know perfectly well I oughtn’t*).’ Which do you feel conveys your piqued feelings more forcibly, ‘I’m not saying silly things’ or ‘I’m not being silly’? Could you give any psychological reasons?

**A** I think the latter carries more force for the same reason mentioned in the preceding question. The verb itself carries more force here than a general noun (things) supported by an adjective. The use of the Progressive re-inforces the strength of the verb.

**B** I feel no one would say “I’m not saying silly things.” It’s a case of one’s attitude not what one says (in this case very definitely so). If the person said ① “Don’t say such silly things” or ② “what you say is silly” the reply would be ① “I’m not…” ② “It’s not silly.” But “Don’t be silly” (aside from being an overused, convenient form) refers to the temporary state or attitude of the person. The person who is always in such a state being called “a silly.”

**C** No. (Could you give any psychological reasons? に対して)

**E** The difference is again that of being and doing (*or saying*).

**F** I think you are right that the former (“being”) is more a deliberate thing and the latter just accidental. Any transitory behaviour must be deliberate even if unconsciously so.

A は ‘are being silly’ の方が more emphatic であることは認める。この答から察すると、‘are saying silly things’ とすれば聴者の注意の分散が行われるのに対し ‘are being silly’ とすれば印象が単一で注意の集中が容易なためそれだけ後者の方が ‘carries more force’ と言うわけなのであろう。B は “I’m not saying silly things” などという言い方を頭から認めないが、これは間違いであろう。しかし “You are being silly” については ‘silly’ は相手の発言内容よりもその態度に向けられていっているのだとする。彼の場合には ‘you’ と ‘silly’ が直接に結びつくのである。発言とか行為と

かは伏せてそうした発言や行為を通じてのその「人」のその瞬間における「判定、評価（印象と言ってもよいかもしれない）」を表面に出そうとするのがこの表現形式の当然のねらいだから、予期される回答である。E は「様態」と「行動」の差を感ずる。F は 'deliberate' 説にますます傾いて来ている。

Question 5. In Example (4), you could change 'when you *are being morbid*' to 'when you *are morbid*', but something is lost in the process. What could be that something? Do you not feel a sort of 'wilful persistence' in 'being morbid'? My reading of 'when you *are being morbid*' is something like this: 'when you *persist in talking in a morbid vein (when you know perfectly well that you oughtn't).*'

A Yes, "when you are being morbid" suggests that Blanche has some control over being this way or not. 'When you are morbid' suggests something outside of personal will or control.

B I agree pretty well with what you say. But "when you are morbid" seems to me no different (at least I feel none at present). I think it is just that the "being" form is used more often and the one we find more readily. It is possible to find (and some people may so use the two forms) a more deliberate sense in "being morbid."

C Yes, perhaps.

E "Are", and "are being" differ in that "are" is static, "are being" dynamic. In themselves they are not emotional, but only more or less intensive.

F That's right; as in question 4, as he is not a morbid person by nature, when he *is* morbid it must be because he chooses to be morbid.

A, F は 'are being morbid' に 'wilfulness' を認める。A は "when you are morbid" は自分ではどうにもならない外的事情、身体的または心理的状態のためそうなっていることを思わせる、と言う。C も少し首をかしげながらもこの場合には 'wilfulness' を認める。E は "are being morbid"

に伏せられている「発言、行動」が意識の底流となっているせい、それを「動的 (dynamic)」と感じ、“are morbid”の方はそれに対して「静的 (static)」と感ずるのは A の感じ方と隣り合わせている。しかし形態そのものについては、どちらの言い方も ‘emotional’ ではなく、強調度の相違だけであるとする。B の言おうとしているところは (例によって甚だつかまえにくい)、‘being morbid’の方に ‘deliberateness’を (問いつめられれば) 感じ得るけれども、これは日常この ‘are being’ の形式が同じような状況の下にしばしば用いられることから自然に形成された subconscious reaction である、というわけらしい。

Question 6. We can say “You are *pale*” but not “You are being pale.” What sort of adjectives do you find can be used in our ‘be being’ form? Adjectives denoting some characteristic mental or moral character, as Otto Jespersen suggests?

A Yes, but not physical attributes such as “pale”, “thin”, “flushed”, “fat”, etc. Mental or moral characteristics only such as “conceited”, “ridiculous”, etc. can be employed with our “be being” form.

B We can use it of: stubborn, unfriendly, kind, ridiculous, stupid, insipid, malicious, etc. all states which we feel are controlled more or less by the person. We do not use it of: angry, hungry, thirsty, etc. Here I feel “angry” may be a case in point. We can control anger and so should be able to say “you are being angry”—but we don’t. Why (if language is to be logical) do we say you are “being morbid” then? We don’t say “you are being happy” either but maybe as psychology advances and everyone thinks such states are controlled by the person we will say so. This may be why we can use “being morbid” (or did we do so before psychology?). Generally speaking Jespersen is correct.

C Yes.

E “Being pale” is impossible because the static (pale) can-

not be made more dynamic. "Being rude" is possible because rude is already dynamic, and can be made more so.

F Yes. The test is whether you can substitute 'are behaving—ly'. Clearly you cannot say 'are behaving palely'.

E は static, dynamic' 説を持出し禪的につっ放している。A, B, C, F と Jespersen の説に賛成するが、A は J. van der Laan と同じく視覚に訴える「身体的状態」を表わす形容詞を排除し、B は「われわれが多少なりとも制御し得ると感じられる (Question 5 に対する A の回答と軌を一にしている) 状態の」という modification を加えたいのであるが、うまく行かない。彼は 'angry, hungry, thirsty' などという形容詞が 'be being' 形には使えないのはどうしてだろうと考えてくれているが、すでに 'are feeling angry, hungry, thirsty, etc.' の形式があることを思い出してくれればよかったのだし、'angry' とことなり 'morbid' の場合には、'are being morbid' の形が可能なのも含意が 'feeling morbid' ではなく 'talking in a morbid vein' だということに気がついてくれれば問題はなかったのと思われる。F の test は面白いのであるが彼は 'being' 形に 'be behaving—ly' しかみとめないで窮屈である、'be speaking—ly' を加えたらこの識別法は有効であろう。筆者個人の観察によれば、(be being+Predicative Adjective or Noun) の構文 (construction) は p.145 で一寸ふれた通り、ある特定の瞬間における発言、または行為、態度に対する話者の「判断」を、形の上ではその発言者または行為者 (この構文の主語は人間であるところに 'control' 説が生れるのかもしれない) にじかに結びつけて表現の 'short circuit' を通ろうとするものであるから、その場合に用いられる形容詞または名詞は、直接には (そういう行為や態度、発言をしている) 当人に対する「判断」を示すものであるが、間接にはそうした行為、態度、発言にも冠せられる「判断」を示す言葉であるように思われる。端的に言えば、「発言、行為態度」にもその「主体」にも同時にあてはまる形容詞 (または名詞) である。It is kind of you to say so. の場合に用いられる形容詞と同じ category に属するようである。少し例 (過去進行形の例も含む) をあげてみよう。

Elsie: Won't you take him back?

Janet: Aren't you being impertinent?

St. John Ervine, *The First Mrs. Fraser*. (cf. Don't you think it impertinent of you to say a thing like that to me?)

/It always gave me a guilty feeling that I was not being exactly fair to Kay. J. P. Marquand, *H. M. Pulham, Esquire*. /"I don't know whether I'm being wise or not." (彼がしている「行為」にも 'wise' は



冠せられる) L. Bromfield, *Early Autumn*. / “You’re not being very *honest*.” (「発言」にもあてはまる) *ibid.* / “You’re being *unjust*, Olivia. You never could see me as I am.” *ibid.* / “I’m glad, my dear, that you’re being *sensible* about this.” *ibid.* / Forgive me, Mrs. Condomime—I am being abominably *selfish*—how can I help you? N. Coward, *Blithe Spirit*. / “I shan’t write any more of those silly books. I thought I was being so *clever*, but I was showing my ignorance all the time.” H. H. Davies, *Cousin Kate*. / “I always have felt you liked that girl better than me!” “Darling, aren’t you being rather *absurd*?” (そんな風に気をまわすことは ‘*absurd*’ である) A. Christie, *Murder Is Easy*. / “I’m afraid we (i. e. the police) are being rather *impertinent* and *inquisitive*, but it’s important that we should get at all the facts. (*impertinent* and *inquisitive* ‘questions’ でもあるわけである) A. Christie, *The Body in the Library*. / Nick spoke to him sharply. “Are you being *sarcastic*, Dad?” Dad said, “I wasn’t kidding…” (sarcastic ‘remarks’ とも言える) P. Gallico, *Trial by Terror*. / “Come on, we’d better take a tax,” “Now who’s being *extravagant*?” (タクシーに乗ろうなどというのは ‘*extravagant*’ な行為である) A. Christie, *The Secret Adversary*. / “I’ve always jumped on sentiment—and here I am being more *sentimental* than anybody.” *ibid.* / You’re being entirely too *emotional* about this. (そういう態度は ‘*emotional*’ というわけでもある) R. Anderson, *Tea and Sympathy*. / Young then flew into a rage and said that I was being *stubborn* and *stupid*. J. Gerard, *The Autobiography of a Hunted Priest*. / “We’re just being *theoretical*.” (そうした discussion は merely ‘*theoretical*’ だというわけでもある) D. L. Sayers, *Gaudy Night*. / She shook hands with Alida but did not kiss her, and Savina was aware of a sudden tightening of the atmosphere, and understood that Alida was being *superior* because she was on the offensive. (‘*superior*’ attitude をとっているわけである) L. Bromfield, *Twenty-Four Hours*.

名詞の場合には下の例に見られるように、表面は主語そのものにしか結びつかないのは当然であるが、その裏にはある行為、ある発言をしていることに対してその人にそうした attribute が冠せられている含みを感じられる。

She thought, “Now I am being a supreme *fool*. I’m pitying myself.” (自分をあわれんでいることに対して自らに「大馬鹿」という attribute を冠せているのである) L. Bromfield, *Early Autumn*. / I really must apologize for bothering you like this. I’m afraid I’m being an awful *nuisance*. A. A. Milne, *The Romantic Age*.

それにしてもこの構文で用いられる形容詞，名詞は Poutsma の言葉を借りれば ‘a dyslogistic purport’ をもつものが絶対多数を占め，

“Iris, dear, I didn't hear you come in. You know Colonel Race. He is being so very *kind*.” A. Christie, *Sparkling Cyanide*. / Bryan smiled gratefully. “You're being very *kind* and very *sympathetic*.” N. Coward, *Star Quality*. / The Inspector was satisfied from the way she made her statements that she was being as *helpful* as she could, and thanked her politely. F. W. Crofts, *The Groote Park Murder*. / I hope you are being a *good girl* and helping Pat as much as you can. *From a private letter*. のように ‘approving purport’ の例は暁天の星よりもまれであるのは，やはり Poutsma の言うように「ほめる」より「くさす」方を好みがちな人間の本性に基因するのであろうか。ともかく興味ある現象である。

Question 7. Is the ‘emotional colouring’ often felt in this form simply an accretion from the usage, i. e., the repetition of the form in similar emotion-charged utterances, or do you feel any intrinsic force in this mode of expression to convey some sorts of emotional nuance?

**A** There seems to be an intrinsic force in the use of the Progressive in these cases. However, we must differentiate here between the spoken and written word. In the former case the speaker can rely on tone, gesture, and emphasis. The author does not have these agents at his command and must rely on such things as a special use of the Progressive for emphasis or emotion.

**B** It probably is largely a fact of usage—I seriously doubt if it is always felt to be as “emotional” as you imply. However, when used of states which the person controls it does mean he is “being so” deliberately (more or less). Sometimes I am sure the speaker uses the form only meaning “you are at this moment saying something silly (etc.)” But then if we ask the speaker chances are he wouldn't know either because we don't live on such a high plane of sensitivity.

C Not intrinsic.

E Already answered.

F I suppose the emotion often arises just from the fact that the other person is behaving out of character and therefore is being either specially agreeable or specially disagreeable. All this verb form does is to show that this behaviour is unusual, and all the emotional shades seem to me to be incidental.

D. は Question I の回答欄に ‘The use of “being” in the cases cited just seems to be common usage.’ とあるように、‘common usage’ に安住してこのような treacherous ground には足をふみ入れない。C は例によって否定的である。‘This fellow is *being* too *inquisitive*!’ などとつぶやいたのかもしれない。E の回答を読み返してみると、こうした場合の進行形は ‘mental or physical activity or movement’ の観念を強調し、‘wilfulness’ の connotation が感じられることもあり ‘dynamic’ であると言っているから、肯定的と考えてよいであろう。F は、柄でない振舞いをしているというだけの事実からそうした感情が起るのであって、感情的色彩は ‘incidental’ とみる。正面からこの厄介な問題にとりくんで考えてくれたのは A と B であるが、A は ‘intrinsic force’ を認めるが、実際に話す場合には、強勢、抑揚、身振り、表情といった有力な補助手段 (agents) によって、感情的含蓄を表わすことができるから、この構文はあまり用いないが、作家の場合はそのような補助手段は与えられていないから、このような「強調」または「感情」を表わす進行形の副次的特殊機能に頼るのだというわけであろう。作家といっても劇作家の場合は俳優の台辞まわし、演技というもっとも有力な ‘agents’ は充分計算に入っているから、この構文に頼る必要が少なそうに一応考えられるが、事実はそうでなく、用例は脚本からも多く拾えるのである。これは A の言う「殊更の強調」ということが舞台にのせる台辞としては大切な条件の一つであることが多いからであろう。B の方はもっとも常識的に (そしてそれがもっとも真相に近いのだらうと思われるが) ‘usage’ のなす業<sup>わざ</sup>だとしている。そして当然のことながら、一般には恐らくこの構文は ‘emotional’ などとは必ずしも意識しないのではないかと言う。そして例の ‘control’ 説を再び持ち出し、制御しようと思えば出来る状態について ‘be being’ が用いられれば、程度の差はあるが、‘deliberateness’ を含意することは事実だし、またある場合には時間的観念 (‘at this moment’) がこの構文を使う場合話者の意識に強く働くこともあろう、と認めている。B は回答にそえた手紙に ‘I do feel the progressive form is more “subtle” and carries emotional

coloring to an extent because it refers to the actual taking place, time, etc. But in some cases it is also context which helps.' と書いている。彼の 'the actual taking place' は Hatcher の 'overt activity' とか 'development by degrees' の考え方に相当するし、'time' は Jespersen の説を裏書きするものだし、'in some cases it is also context which helps' では Kruisinga の 'context' 説を全面的ではないにしろ確認するものである。

現在進行形に屢々まつわる感情的色彩のよって来る心理的理由について以上の僅か6名の回答者の回答からは、結論めいたものすら引き出すことは至当でないが、それでも次の点だけは明らかになったようである。話者がある事柄にどういう感情をいだくか、いだかぬかは、結局彼のその時の viewpoint によるのであり、その viewpoint 次第で、用語、構文が決定されるのであるから、感情そのものは Kruisinga の説くように 'context' が generator であるが、たまたま進行形の持っている根本的な機能である「継続、反復」を利用すれば、その感情的含蓄が強調され、より明確になるのではあるまいか、という感じである。そして現在進行形（過去進行形についても大体同じことが言えるのではないかと察しられるが）にまつわる感情的色彩の究明には、Hatcher の（非）明白活動、（非）進展活動の観念よりも、動詞の有意志性、無意志性の観念を導入した方が効果的ではないかとも思われる。

ある特定の場合について、単純形をとるか進行形をとるかという基準は大体において一般の慣用できまっているのであろうが、感情的色彩を添える場合には、主観的な嗜好が両構文のいずれをとるかを決定する場合も多かろうと思われる。このような主観的な嗜好が慣用にどの程度影響を受けるものかという点もわれわれとしては知りたいのであるが、こうした主観的な要素が多分にまじる問題について客観的資料を得るためには調査の方法も当然変えなくてはならない。ある特定の状況をまず設定し、irritation, impatience, disgust 等々の感情に心がみたまされた場合、表現すべき内容について単純形と進行形の二つをそれぞれ用意し、そのいずれをとるかを相当広い範囲にわたって調

査するのも一法であろう。そうした設問の用意には非常な労苦を要することは明らかであるが、そのような基礎的な調査こそ主観にゆがめられない結論に達するには是非必要なのではあるまいか。これは今後の課題として残されたわけである。